

■(養珠院)お万の方 徳川家康の側室で、御三家紀伊・水戸の生母。美人で文武に優れ、仏教に帰依した大賢婦。

おまんのかた

安土楽市楽座1577＝ 南総勝浦で、正室小田原北条氏隆の娘を母に、勝浦城主正木邦時の娘に生まれる。

石山合戦終・1580＝ 3歳：同族の正木憲時が大多喜で領主里見に背いて挙兵、攻められたため、一家で脱出、海路故郷三原へ帰る。父が里見一門に格上げされ、頼忠と改名。

父が今後の厳しい状況を考えて、母を離別、母に連れられ、兄の正木為春とともに小田原へ行き、母が里見氏から託された蔭山氏広と再婚、兄正木為春とも再会、

長久手の戦・1584＝ 7歳：蔭山貞広が誕生。

秀吉太政大臣1586＝ 9歳：この年、兄為春が小田原から安房に戻る。

この間、蔭山氏広が伊豆河津郷に帰る。

秀吉全国統一1590＝13歳：豊臣秀吉軍の攻撃で、下田城・河津城が落城、蔭山一家で修善寺賀殿妙国寺を頼る。小田原城も落城し、父は勝浦を開城して安房に帰る。この年、身延日新が小田原陣中の徳川家康に祈禱巻と馬草履千足を献上。

この年、家康が飯高寺に称号を与え、身延日新が家康より馬喰町に寺地を受け、瑞輪寺を創立。

土農工商公布1591＝14歳：伊豆代官江川太郎左衛門の招宴の際、家康に見出され、以後、お万の方と称する。

方広寺大仏殿1593＝16歳：この年、法華寺が賀殿妙国寺に合居。

ワヅ島通交・1594＝17歳：この年、法華寺が賀殿妙国寺に合居。

関白秀次事件1595＝18歳：

豊臣秀吉没・1598＝21歳：兄(正木改め)三浦為春が徳川家に出仕し、12年ぶりに再会する。

前田利家没・1599＝22歳：この年、心性院日遠が飯高檀林の化主となる。

関ヶ原の戦・1600＝23歳：この年、お亀の方が五郎太郎(後の義直)を出産。

この頃、京都本満寺日重(身延二十世)の説法を聞いて感銘を受け、日乾に師事。

東本願寺創建1602＝25歳：この年、本満寺日乾が身延山二十一世となる。伏見城で、家康十男長福丸(後の頼宣)を出産。

阿国歌舞伎始1603＝26歳：この年、家康征夷大將軍となり、幕府を開く。伏見城で、家康最後の男子鶴千代(後の頼房)を出産。長福丸水戸二十万石を領す。兄為春が長福丸附となり、水戸に住す。続いて日遠に師事して心服。

糸割符法始・1604＝27歳：長福丸が水戸二十五万石、鶴千代が常陸下妻十万石。日遠が身延二十二世となり、西谷檀林創立。

江戸城完成・1606＝29歳：鎌倉法華寺の伊豆玉沢への移転着工。照長山本法寺を常州水戸に創す。同じ家康側室英勝夫とともに、長沢妙法華寺本堂を建立。

家康駿府退隠1607＝30歳：この年、義直が名古屋六十二万石を領す。家康が駿府に移住するのに、頼宣・頼房とともに従う。

慶長の法難が起こり、信仰の危機。日遠は連座したのを不徳として大野山本遠寺に退蔵。

島津琉球支配1609＝32歳：常楽院日経並に五人の弟子が京都六条河原で耳切り・鼻そぎの刑に処せられるなどを見て、不惜身命の行爲により、家康を憂心させ、日遠の安倍川での死罪を免れさせる(駿府の法難)。身延二十三世日祝が病氣静養のため退任し、日乾が再び身延に晋山。頼宣・頼房に命じ、日遠のために甲斐大野一大伽藍を寄進させる(のち大野本遠寺)。駿河に蓮心寺を創す。頼宣が駿遠五十万石、頼房が水戸二十五万石となる。

伊豆賀殿妙国寺本堂の施主となり、日産が上棟式挙行。三浦為春が頼宣婚姻の使いで熊本に下向し、紀行文「太笑記」を書く。日産が妙国寺を退去し、日遠が入山。

山田長政渡航1611＝34歳：甲州大野山本遠寺に新たに大客殿を建立。母智光院妙経日種が死去。

キリスト教禁止・1612＝35歳：父正木頼忠が駿府に出て家康に謁するも、徳川家報仕を欲せず、安房に帰る。日産が駿府で死去。

支倉常長渡欧1613＝36歳：

大坂冬の陣・1614＝37歳：

里見氏が改易となり、父頼忠は兄為春の許に同居。頼宣・頼房に命じ、大野に堂塔精舎を築いて本遠寺と号し、日遠を開山と仰ぐ。日乾が西谷檀林に退蔵し、日祝が身延に住す。

大坂夏の陣・1615＝38歳：大坂夏の陣に頼宣と為春戦功あり。身延二十三世日祝寂。家康の命により、日遠が身延に再任。助成して、身延鐘樓を建立。駿府松野の寺を有度郡谷谷に移し、貞松山蓮永寺と称し、日乾を中興とする。

徳川家康没・1616＝39歳：伊豆吉奈温泉に行き、真言宗の廃寺を再興し、善名寺と称する。家康が駿府城で死去。静岡感応寺日陽に就き受戒剃髪、法尼となる。家康の百ヶ日に際し、感応寺で「放生会」。常陸太田に蓮華寺を建立し、身延末寺とす。この年、日遠上人狸座を下り大野に再臨。日要が身延に住する。

吉原遊郭始・1617＝40歳：頼宣が加藤清正の娘八十姫と駿府城で結婚式。家康の一周忌を駿府で行なう。日遠が伊豆妙本寺に隠退。

養珠院日心が蓮永寺本堂・方丈を建立。秀忠が境内諸役を免除し、頼宣が黒印状を与える。頼宣が元服。

菱垣廻船始・1619＝42歳：日心が蓮永寺の鎮守神殿を造立。頼宣が紀伊五十五万五千石に国替え。家康の三回忌を身延山で修す。頼宣が蓮心寺を和歌山に移転するとともに、感応寺を創す。

秀忠娘入内・1620＝43歳：日遠を外護し、妙法華寺を玉沢に移転。

利根川付替始1621＝44歳：施主として、玉沢十五世日遠が客殿上棟。

元和大殉教・1622＝45歳：日遠が死去。父正木頼忠が死去。頼宣の病氣見舞で和歌山へ行き越年。

徳川家光將軍1623＝46歳：亡母の十三回忌にあたり、妙法華寺で千部会を修し、五輪塔を養父誠証院と並べて建つ。身延二十四世日要が死去し、京都本満寺より、日深が入山。日乾が蓮永寺を辞し能勢に還る。

イパニ断交・1624＝47歳：為春が天海より三浦重代の太刀を受ける。身延日深が日遠の遺志を継いで、大鐘を鑄造するのを支援。中伊豆各地を30年前の御礼参り。小石川興善寺を建てて水戸家の祈願所とし、大野山の江戸宿泊所とする。

本遠寺本堂を建立。この年、本阿弥光悦が両親菩提のため「本遠寺」と扁書して大野山に寄進。

人身売買禁止1626＝49歳：身延二十五世日深が死去。

紫衣勅許無効1627＝50歳：京都本満寺から、日暹が身延二十六世として入山。

寛永禁書令・1630＝53歳：幕府が、池上を日遠に、妙覚寺を日乾に与える。池上本門寺境内に杉苗一万本を寄進。

糸割符拡大・1631＝54歳：頼宣の息災延命のため飯高の妙見宮を造営。日遠が池上を、日乾が妙覚寺を退く。

徳川秀忠没・1632＝55歳：身延日暹が菩提梯の工を起す。

鎖国令Ⅱ・1634＝57歳：駿河貞松山内に大石塔を建立。

参勤交代始・1635＝58歳：日乾が死去。

東照宮完成・1636＝59歳：日暹・長崎下田奉行今村正長らと奉加して、身延に日遠宿願の会合所・妙見宮を建立。

島原の乱終・1638＝61歳：和歌山誠証寺を建立。日遠報恩のため、鎌倉妙本寺境内に供養塔を建てる。

寛永飢饉始・1640＝63歳：*甲州本遠寺で家康の二十五回忌を修し、初めて七面山に参詣して女人禁制を解く。

初の高札・1642＝65歳：日遠が死去。本遠寺の増築着工。

寛永飢饉終・1643＝66歳：願主となり、日暹が千体仏並にその堂を身延に造立。

明滅亡・1644＝67歳：頼宣の大厄が無事過ぎたため、武蔵千駄ヶ谷に東漸寺を建立し、外甥の日暹を主とし、後、仙寿院と改む。2回目の七面山登山。

この年、家光が朱印を大野本遠寺に寄せる。

この年、家光が本遠寺に寺領二百六十余石を寄進。

市中諸法度・1648＝71歳：身延日暹が死去、日境が入山。飯高檀林講堂を再建。家康三十三回忌菩提で、和歌浦に大宝塔を建立。

慶安御触書・1649＝72歳：家康三十三回忌追善のため、和歌浦妹背山に題目碑を建立。本遠寺の日性(三浦為春の子)が死去し、

御蔭参流行・1650＝73歳：鎌倉より、日近が入山。本遠寺で、家康の三十五回忌を行なう。本遠寺が被災し、頼宣が復興。

徳川家光没・1651＝74歳：

承応事件・1652＝75歳：兄三浦為春が死去、身延でその百が日法要を行い、3回目の七面山登山。本遠寺に開山堂廟を建立して、

野郎歌舞伎始1653＝76歳：没した。